

日本語のオノマトペ「チクチク」、「チクッ」、「チクリ」、「チクリチクリ」の記述的研究

杉村 泰

DOI: 10.18999/stul.32.5

1. はじめに

日本語には図1のように痛みを表すオノマトペがたくさんある。これらの表現は「ビリビリ」なら痺れるような痛み、「ジンジン」なら焼けるような痛み、「チクチク」なら針で刺すような痛みを表すというように、痛みの違いを端的に言い分けることができる(図2)。そのため、医療や介護の現場では医者と患者、介護をする人とされる人の間で意思疎通をするのに役立つ(吉永・宮田・鈴木 2012、秋田 2016、オノマトペラボ¹など)。しかし、日本語学習者はこれらのオノマトペの意味の違いを必ずしもよく理解しているわけではない。そこで杉村(2017)では、日本語教育のためのオノマトペ研究の一環として、「ヒリヒリ、ヒリッ、ヒリリ」、「ピリピリ、ピリッ、ピリリ」、「ビリビリ、ビリッ、ビリリ」の違いについて論じた。これに引き続き、本稿では「チクチク」、「チクッ」、「チクリ」、「チクリチクリ」の違いについて論じる。



図1 痛みを表すオノマトペ

(タカノスカイプロラクティックのHPより)²



図2 神経障害性疼痛の図

(疼痛.jpのHPより)³

¹ <http://onomatopelabo.jp/index>

² http://taka-nous.com/pain_all/

³ <http://toutsu.jp/>

2. 先行研究

本稿で見る「チクチク」、「チクッ」、「チクリ」、「チクリチクリ」は、針で刺すような痛みを表す点で共通している。これに関して小野(編)(2007)は次のように記述している。

小野(編)(2007:246-247)

ちくちく ① **さま** 先のとがったものなどで、こきざみに繰り返すさま。また、そういう刺激や痛みを感じるさま。「夕飯後はちくちくと針仕事をする」「上着の粗いツイードのチクチクする感触」(エオンタ・金井美恵子)「私の良心は其度にちくちく刺されるやうに痛みました」(こゝろ・夏目漱石) ② **さま** **古** こまぎれに次々に連なるさま。こまやかであるさま。こまごましたさま。「道風・行成などのかなが世間に今も少々侍るは、ちくちくと候へば、鼠の足形のやうに有りし也」(正徹物語) ③ **さま** **古** 量的に些細なことがだんだん積み重なるさま。こきざみな動きが繰り返されるさま。少しずつ。「ただちくちくと商あきなどをして身を持つけぞ」(周易抄) **方言** 少しずつ。四国地方。「その菓子、高いんじゃきに、ちくちく食べなよ」(香川県)「ちくちく貯金しても大金になる」(高知県) ④ ⇒漢語編「ちくちく(轟轟)」

ちくっ ① **さま** 先のとがったものなどでほんの少し刺すさま。また、そういう刺激や痛みを感じるさま。「ちくっとな京虫が兄さんの体を食った処を」(続俳諧師・高浜虚子) ② **さま** わずかばかりのさま。「散歩して、ちくっと一杯やる」(三ちゃんも三ちゃんや・古山高麗雄)

ちくり **さま** 針など先のとがったもので少しだけ一度刺すさま。また、そういう痛みを感じるさま。皮肉や苦言などで人を刺激するさま。「あるは若枝にも薔薇ばの刺ととてちくりとしたる詞の端」(門三味線・斎藤緑雨) ⇒使い分け「ぶすり」

ちくりちくり **さま** 針などで何度も刺すさま。また、そういう痛みを感じるさま。皮肉や気に障る言行が他の人を刺激するさま。「はりのたちをばさかてにもってちくりちくりと、はらちゅうつけば」(唱歌一寸法師・巖谷小波)「チクリチクリと私の勘に引っかかる」(見知らぬ人・真船豊)

ちくん **さま** 針など先のとがったもので、少しだけ一度刺すさま。また、そのような刺激や痛みを感じるさま。「折角癒着しかかった傷口をむりに引き裂くやうな苦痛が、彼の不安に閉ざされた胸をチクンと刺し貫いた」(怒れる高村軍曹・新井紀一)

小野(編) (2007)の記述を整理すると表1のようになる。

表1 小野(編)(2007)の記述の比較

	動作の回数	動作の程度	刺激の方向	例文の有(○)無(×)		
				肉体	精神	運針
チクチク	複数的(小刻み)	—	能動、受動	○	○	○
チクリチクリ	複数的	—	能動、受動	○	○	×
チクッ	一回的	ほんの少し	能動、受動	○	×	×
チクリ	一回的	少しだけ	能動、受動	×	○	×
チクン	一回的	少しだけ	能動、受動	×	○	×

表1のように、「チクチク」、「チクリチクリ」のような反復表現は複数的動作を表し、「チクッ」、「チクリ」、「チクン」のような非反復表現は一回的動作を表す⁴。この場合、「チクリチクリ」より「チクチク」の方が音節が短いため、音象徴的に小刻みな動きを表すと考えられる。

また、小野(編) (2007)は「チクチク」などの用法について、能動的に刺激を与える場合と受動的に刺激を受ける場合があること、肉体的刺激だけでなく精神的刺激を表す場合があること、運針の様態を表す場合があることなどが指摘されている。しかし、小野(編) (2007)は辞書の体裁をとっていることもあり、各用法の使用頻度や痛みの部位などについては詳しく記述されていない。そこで本稿ではコーパス(BCCWJ)を利用して、「チクチク」、「チクッ」、「チクリ」、「チクリチクリ」⁵の被修飾語(動詞など)と主体または対象⁶の違いを見ることにより、各形式間の相違や各形式内の多義構造を詳しく見ることにする。

3. 痛みの部位に関する意識調査

まず、日本語母語話者と学習者が「チクチク」をどのように認識しているか見る。本研究では痛みを表す「ガンガン」、「キュンと」、「キリキリ」、「キンキン」、「シクシク」、「ジンジン」、「ズキズキ」、「ズーン」、「チクチク」、「ツーンと」、「ドーンと」、「ヒリヒリ」、「ビリビリ」、「ピリピリ」、「ミシミシ」の15語のオノマトペについて、次の被験者を対象に、以下のアンケート調査

⁴ オノマトペの反復については、田守・スコウラップ(1999:30)でも「音や動作の繰り返さないしは連続を表す」と指摘されている。杉村(2018)の「キュンキュン」、「キュッキュッ」も同様である。

⁵ BCCWJからは「チクン」の例が出現しなかったため、本稿では「チクン」を考察対象から外した。

⁶ 「肌がチクチクする」なら主体、「肌をチクチクする」なら対象と考える。

を行った。答えが分からない場合には想像で回答してもらった。その結果を表2に示す。

[被験者]

・日本語母語話者

名古屋大学学部生 61 名(2017 年6月 29 日、7月 11 日、名古屋大学で実施)

・中国語を母語とする上級日本語学習者(全員N1合格)

名古屋大学留学生 19 人(2017 年7月7日～17 日、名古屋大学で実施)

・中国語を母語とする初級日本語学習者(全員日本語学習歴8か月。この時点ではまだ授業ではこの 15 語のオノマトペを学習していない)

上海師範大学外国語学院日語系1年生 26 人(2017 年5月 15 日、上海師範大学で実施)

[アンケート]

問 次の括弧の中に適当な身体部位を入れてください。また、それはどのような痛みだと思いますか(中国語で説明して構いません)⁷。

1. ()がガンガン痛む。()
- :
15. ()がミシミシと痛む。()

表2を見ると、日本人は「チクチク」といえば「胸」を連想する人が最も多く、次いで「肌/皮膚」、「手」、「腹」、「胃」の順になっている。ただし、「胸」と答えた 17 人のうち 13 人が「罪悪感」、「悲しみ」、「切なさ」、「恋」などの精神的な胸の痛みを挙げており、肉体的な痛みとしては必ずしも「胸」が一番とはなっていない。一方、上級学習者は「腹」、「頭」、「胸」、初級学習者は「心」と「胃」、「頭」と「腹」の順になっている。ここで特徴的なのは、日本人には見られない「頭」が上位に来ている点である。日本語で「頭がガンガン痛む」、「頭がズキズキ痛む」とは言うが、「[?]頭がチクチク痛む」とはあまり言わない⁸。

また、「チクチク」で表される痛みについて、日本人は 26 人(42.6%)が「針で刺すような痛み」と説明しているのに対し、学習者で同様の説明をした人は、上級学習者では7人

⁷ 括弧内の注は中国人学習者にのみ付けた。

⁸ BCCWJ からは「頭」の例が1件出現する。しかし、これは頭痛ではなく「頭がちくちく痒い」という例である。文脈がないので詳細は不明であるが、カットした髪の毛が頭に当たって痒い様子を表していると思われる。

(36.8%)いるものの初級学習者では 1 人(3.8%)しかいなかった。その代わりに初級学習者は“陣(陣)痛”(一しきりの痛み)と説明した人が6人(31.6%)いた(上級にはいなかった)。このことから、初級で音から「チクチク」の意味を連想するのは難しいことが分かる。

表2 「チクチク」の痛みの部位に関する意識調査 (回答数と割合)

	日本人		上級中国人学習者		初級中国人学習者	
1	胸	17(27.9%)	腹	4(21.1%)	心	4(15.4%)
2	肌/皮膚	9(14.8%)	頭	3(15.8%)	胃	4(15.4%)
3	手	8(13.1%)	胸	3(15.8%)	頭	3(11.5%)
4	腹	7(11.5%)	胃	2(10.5%)	腹	3(11.5%)
5	胃	4(6.6%)	指	2(10.5%)	手	2(7.7%)
6	指	3(4.9%)	背中	1(5.3%)	爪	2(7.7%)
7	目	2(3.3%)	膝	1(5.3%)	肘	2(7.7%)
8	歯	2(3.3%)	手	1(5.3%)	足	2(7.7%)
9	喉	2(3.3%)	足	1(5.3%)	口	1(3.8%)
10	腕	2(3.3%)	心	1(5.3%)	歯	1(3.8%)
11	顔	1(1.6%)	合計	19(100%)	腰	1(3.8%)
12	首	1(1.6%)			膝	1(3.8%)
13	心臓	1(1.6%)			合計	26(100%)
14	足	1(1.6%)				
15	(未記入)	1(1.6%)				
	合計	61(100%)				

以下、国立国語研究所の「現代日本語書き言葉均衡コーパス(通常版)」(BCCWJ)⁹の「中納言」を利用して、各オノマトペの被修飾語と主体または対象の違いについて見る。検索においては全資料を次のように短単位検索して、手作業でごみを取り除いた。

・キー 語形が[チクチク] (orチクッ/チクリ/チクリチクリ/チクン¹⁰)

4. 「チクチク(と)」¹¹

4.1 「チクチク(と)」の被修飾語

まず「チクチク」の被修飾語について見る。BCCWJの検索結果を表3に示す。「チクチク」

⁹ 検索対象語数:124,100,964 語、空白・記号・補助記号を除いた検索対象語数:104,911,460 語。

¹⁰ BCCWJからは「チクン」の例は出現しなかった。

¹¹ 本稿では「と」の有無による意味の違いについては、踏み込んで議論しないことにする。これについては、秋田(2013, 2016)で論じられている。

には後に「と」が付く場合と付かない場合があり、どちらも同じように使われている。表3を見ると、「チクチク」は「チクチク(と)する」の形で使う場合が 152 例中 67 例(44.1%)と最も多く、「チクチクだ」は1例も出現していない¹²。また、「チクチク」の被修飾語には「痛む」や「痛い」のように痛みを表す語、「刺す」、「縫う」のように針状の物で何かを刺すことを表す語、「言う」のように発言を表す語が来ている。さらに「線画でチクチクやる(「画く」の意味)」、「話をチクチクと書く」、「誰かをのけ者にする計画をチクチクと実行する」のように、「チクチク」を「少しずつ」の意味で使っているものも3例出現している¹³。

表3 「チクチク(と)」の被修飾語 (出現数)

—する ¹⁴	67	縫う	8	突つつく	1		
—になる	1	作る	2	全ての筈に座る	1		
痛む	16	縫い紡ぐ	1	恩を売る	1		
痛い	6	手縫いする	1	プレッシャーをかける	1		
(痛みを)感じる	1	しつけ縫いをする	1	—感	2		
(違和感を)感じる	1	手作りする	1	—φ(名詞) ¹⁵	5		
痒い	1	ハンドメイドする	1	—φ(動詞)	3		
発汗作用が起こる	1	書く	1	/			
刺す	7	実行する	1				
刺激する	3	言う	5				
突く	1	やる	4				
当たる	2	責める	1				
引っかかる	1	攻撃する	1				
うごめく	1	持ち出す	1			合計	152

以上のように、「チクチク」には「針状の物で何かを刺す時の様態を表す」という基本義を持ち、そこから「運針の様態」、「肉体的刺激」(体を刺す・体に刺さるような痛み)、「精神的刺激」(心を刺す・心に刺さるような痛み)の意味が派生する。また、「運針の様態」を表す場

¹² 吉永(2016:21)はオノマトペを「だ」や「する」との接続の仕方の違いからA～Dの4つのタイプに分けている。〈Aタイプ〉は主に「する」が付加されるもの(「ちくちく(*だ/する)」など)、〈Bタイプ〉は主に「だ」が付加されるもの(「くたくた(だ/*する)」など)、〈Cタイプ〉は「する」と「だ」が両方付加できるもの(「ふらふら(する/だ)」など)、〈Dタイプ〉は特定の動詞と結びつき、「する」や「だ」が付加できないもの(「ぐっすり(眠る/*する/*だ)」など)である。その上で吉永(2016)は「チクチク」をAタイプに分類している。

¹³ いずれも「Yahoo!」の例である。小野(編)(2007)では方言にこの用法があることが指摘されている。

¹⁴ 「している」、「した」などの活用形を含む。以下同様。

¹⁵ 「—φ(名詞)」は「全身のチクチク治るかな」のようにオノマトペ単独で名詞用法となっているもの、「—φ(動詞)」は「ずきずき、ひりひり、ちくちく、色んな痛みで攻められます」のようにオノマトペ単独で動詞用法となっているものを指す。以下同様。

合は「人が服をチクチク縫う」のように能動的動作しか表さないが、「肉体的刺激」と「精神的刺激」は例(1)、例(2)のように能動的動作も受動的動作も表す。この場合、「チクチク(と)する」は「肉体的・能動」、「肉体的・受動」、「精神的・受動」には使われるが、「精神的・能動」には使われない。

- (1)a. 首筋を針でチクチク{する/刺す}。(肉体的・能動)¹⁶
 - b. 首筋に毛が刺さってチクチク{する/痛む}。(肉体的・受動)
- (2)a. 相手の良心をチクチク{*する/責める}。(精神的・能動)
 - b. 彼のことが心配で胸がチクチク{する/痛む}(精神的・受動)

4.2 「チクチク(と)」の主体・対象

次に「チクチク」の主体または対象について見る。BCCWJの検索結果を表4に示す。「チクチク」は肉体的刺激を表す用法が100例(65.8%)と最も多く、次いで精神的刺激が28例(18.4%)、運針の様態が20例(13.2%)、「少しずつ」の意味が3例(2.0%)、用法不明が1例(0.7%)¹⁷となっている。

「チクチク」が肉体的な痛みを表す場合、顔の各部分、体表面、胃や子宮や胸など¹⁸の針で刺されるような痛みを表す。この場合、例(3)、例(4)のように他動詞構文に使われることもあれば、例(5)、例(6)のように自動詞構文に使われることもある。

- (3) 誰かが針で首筋をチクチク刺す。(人ガ 刺激物デ 身体部位ヲ 他動詞)
- (4) セーターの毛が首筋をチクチク刺す。(刺激物ガ 身体部位ヲ 他動詞)
- (5) 首筋がチクチクする。(身体部位ガ 自動詞)
- (6) セーターの毛がチクチクする。(刺激物ガ 自動詞)

また、肉体的な痛みは共感的に「罪悪感」、「悲しみ」、「切なさ」、「恋」などによる精神的な胸の痛みにも使われるようになる。この場合、例(7)～例(9)のように、痛みの部位は主体(ガ格)になり、非難の対象や非難の内容は対象(ヲ格)になる。これは後の「チクッ」、「チ

¹⁶ 「肉体的・能動」の場合、「首筋をチクチクする」は言えるが、「首筋を{[?]チクッと/*チクリと/*チクリチクリと}する」は「～刺す」に比べて言いにくいと思われる。

¹⁷ 「でも チクチクは がんばりますね」(Yahoo!ブログ)

¹⁸ BCCWJからは出現しなかったが、心臓の痛みにも使えると思われる。

クリ」、「チクリチクリ」でも同様である。

- (7) 胸{が/*を}チクチク痛む。(身体部位)
 (8) 誰かがあの件・自尊心{*が/を}チクチク責める。(非難の対象)
 (9) 誰かが嫌味・皮肉{*が/を}チクチク言う。(非難の内容)

表4 「チクチク(と)」の主体・対象 (出現数)

肉体的刺激(100)				運針の様態(20)			
肌/皮膚	7	胸	1	毛足の長い服	1	布	3
下腹部	7	おっぱい	1	タワシ	1	パッチワーク	2
腹	5	背中	1	草	1	布団	1
頬	3	肩	1	縄目	1	端切れ	1
手	3	腕	1	φ(痛み) ¹⁹	25	甚平	1
手のひら	3	指	1	精神的刺激(28)		袋	1
全身	2	尻	1	胸	6	クロス	1
歯茎	2	後ろの方	1	心	2	ぬいぐるみ	1
胃	2	アンダー	1	良心	2	人形	1
子宮	2	大事な所	1	自尊心	1	芸術作品	1
毛	2	ふくらはぎ	1	向こうの足許	1	φ(運針)	7
体	1	膝	1	そのこと	1	「少しずつ」の意味(3)	
頭	1	足	1	あの件	1	線画	1
頭皮	1	足の裏	1	嫌み	3	話	1
顔	1	細胞	1	嫌なこと	1	のけ者にすること	1
目	1	神経	1	当てつけや皮肉	1	用法不明(1)	
脇の裏	1	傷痕	1	アドバイス	1	φ	1
舌	1	トゲ	2	プレッシャー	1		
口周り・目元・首	1	セーター	2	φ(精神)	7		
うなじ	1	チョッキ	1				
喉	1	ニット類	1				
						合計	152

最後に「チクチク」の用例を例(10)～例(15)に示す。

- (10) (肉体的・能動) ナイフの刃先は、あたしの頬をチクチク刺したわ。(田村建雄『ドキュメント外国人犯罪』)

¹⁹ 「φ」は検索した用例の中だけでは主体や対象が明示されていないものを指す。何となく推測できる場合でも、「φ」とした。このうち「φ(痛み)」は肉体的痛み、「φ(精神)」は精神的な緊張感、「φ(運針)」は針を突き刺す様態を表す場合の例であることを表す。以下同様。

- (11) (肉体的・受動) シダに似た植物の葉のトゲが、チクチクと顔に当たる。(恩田陸『上と外』)
- (12) (精神的・能動) 仕事まで辞めてユジンの良心をチクチク責める。(柳雪香・ヨンヨンファミリー(編)『『美しき日々』のすべて』)
- (13) (精神的・受動) 「きっと淋しい思いをしているだろう」と胸がチクチク痛んでいたのですが、(Yahoo!知恵袋)
- (14) (運針の様態) 本当に一針一針チクチク縫い進めてました。(山田風太郎『魔界転生』)
- (15) (「少しずつ」の意味) 娘だけをグループからのけ者にしました。数ヶ月前から計画的にちくちくと実行していたみたいです。(Yahoo!知恵袋)

5. 「チクツ(と)」

5.1 「チクツ(と)」の被修飾語

次に「チクツ」の被修飾語について見る。BCCWJの検索結果を表5に示す。「チクチク」は後に「と」が付く場合も付かない場合もあるのに対し、「チクツ」は「-φ(名詞)」の1例²⁰で「と」が付いていないだけで、それ以外の12例には全て後に「と」が付いている。表5を見ると、「チクツ」は「チクツとする」の形で使う場合が13例中8例(61.5%)と圧倒的に多いことが分かる。その他、「チクチク」の被修飾語には「痛みが走る」や「痛い」のように痛みを表す語や、「やる」(この場合は「言う」の意味)も来る。

表5 「チクツ(と)」の被修飾語 (出現数)

-する	8	痛い	1	-φ(名詞)	1
痛みが走る	1	やる	1	-φ(動詞)	1
合計					13

例(16)、例(17)に示すように、「チクチク」も「チクツ」も針状の物で何かを刺す時の様態を表すが、「チクチク」が連続的な刺激を表すのに対し、「チクツ」は瞬間的な刺激を表すという違いがある。

²⁰ 「でも針のチクツだけで、あとは無痛で楽勝。」(パパラッチ隊『MORE(モア)』No.330)

- (16) 昨夜からずっと、胃が{チクチク/*チクッ}としている。(連続的)²¹
 (17) 注射器の針が刺さった瞬間、{*チクチク/チクッ}とした。(瞬間的)

また、例(18)、例(19)に示すように、「チクッ」も「肉体的刺激」と「精神的刺激」を表す。ただし、「チクチクする」は「肉体的・能動」の場合にも自然であったが、「チクッとする」は少し不自然な感じがする。BCCWJ から出現した 8 例の「チクッとする」(肉体的 7 例、精神的 1 例)も、「チクッとした痛み」、「カシミアがチクッとする」など全て受動的な例であった。

- (18) a. 首筋を針でチクッと{[?]する/刺す}。(肉体的・能動)
 b. 首筋に毛が刺さってチクッと{する/痛む}。(肉体的・受動)
 (19) a. 相手の良心をチクッと{*する/責める}。(精神的・能動)
 b. 彼のことが心配で胸がチクッと{する/痛む}(精神的・受動)

また、「チクチク」には「運針の様態」を表す用法があったが、「チクッ」にはこの用法はない。これは「チクッ」は瞬間的な動作を表すため、運針のように連続的な動作を表すことができないためであると考えられる。

5.2 「チクッ(と)」の主体・対象

次に「チクッ」の主体または対象について見る。BCCWJ の検索結果を表6に示す。「チクッ」は肉体的刺激が 10 例(76.9%)、精神的刺激が 3 例(23.1%)で、肉体的刺激の用例の割合が高い。痛みの部位は「腕」、「あご」、「ペニス」、「尿道」のほか「チクチク」が使える部位は「チクッ」も使えると思われる。

表6 「チクッ(と)」の主体・対象 (出現数)

肉体的刺激(10)		精神的刺激(3)	
腕	2	尿道	1
あご	1	φ(痛み)	5
ペニス	1		
		別れ別れになること	1
		φ(精神)	2
		合計	13

また、「チクッ」が肉体的な痛みを表す場合、例(20)、例(21)のように他動詞構文に使われ

²¹ 例(16)、例(17)はそれぞれ吉永(2016)の例(17)、例(20)を参考に作成したものである。

ることもあれば、例(22)、例(23)のように自動詞構文に使われることもある。

- (20) 誰かが針で首筋をチクッと刺す。(人ガ 刺激物デ 身体部位ヲ 他動詞)
- (21) セーターの毛が首筋をチクッと刺す。(刺激物ガ 身体部位ヲ 他動詞)
- (22) 首筋がチクッとする。(身体部位ガ 自動詞)
- (23) セーターの毛がチクッとする。(刺激物ガ 自動詞)

また、肉体的な痛みは共感的に精神的な胸の痛みにも使われるようになる。この場合も「チクチク」が連続的な心の痛みを表すのに対し、「チクッ」は瞬間的な心の痛みを表すという違いがある。これを例(24)、例(25)に示す。

- (24) 相手の欠点をしきりに{チクチク/*チクッ}と責める。(連続的)
- (25) 相手の欠点を一言{*チクチク/チクッ}と責める。(瞬間的)

最後に「チクッ」の用例を例(26)～例(29)に示す。「肉体的・能動」と「精神的・能動」の用例はBCCWJからは出現しなかったため作例を示しておく。

- (26) (肉体的・能動) ナイフで頬をチクッと刺した。(作例)
- (27) (肉体的・受動) 起きあがろうとして、祈は左腕にチクッとした痛みを感じた。(恩田 陸『上と外』)
- (28) (精神的・能動) 相手の良心をチクッと責める。(作例)
- (29) (精神的・受動) 明日別れ別れになるというのも、大きくなるための、ちくっとした痛みであろうか。(川村たかし『くじらの海』)

6. 「チクリ(と)」

6.1 「チクリ(と)」の被修飾語

次に「チクリ」の被修飾語について見る。BCCWJの検索結果を表7に示す。「チクリ」は全

44 例のうち、「言う」の中の1例²²と「一 φ (動詞)」の中の5例の合計6例を除いた 38 例 (86.4%) で「と」が付いている。表7を見ると、「チクリ」は「チクリとする」の形で使う場合が 44 例中 5 例 (11.4%) しかなく、「チクチク(と)する」や「チクッとする」に比べて使用率が低いことが分かる。また、「チクリ」の被修飾語には「痛む」や「痛い」のように痛みを表す語、「刺す」のように針状の物で何かを刺すことを表す語、「言う」のように発言を表す語が来る点で「チクチク」と似ている。ただし、「チクチク」と違って「突き刺す」、「突き通す」、「一突き」のように対象を深く刺し貫く場合に使われる点で特徴がある。このことから、「チクチク」は浅く連続的に刺すことを表すのに対し、「チクリ」は相対的に深く一回的に刺すことを表すことが分かる。ちなみに「チクッ」は「チクチク」と同様に刺し幅が浅いこと(ただし一回的)を表す。これを例(30)、例(31)に示す。

(30) セーターの毛が首筋に{チクチク/チクッ/*チクリ}と当たる。(刺し幅が浅い)

(31) 鍼を体に{*チクチク/*チクッ/チクリ}と刺し通す。(刺し幅が深い)

表7 「チクリ(と)」の被修飾語 (出現数)

一する	5	突き刺す	1	言う	5
一くる	1	突き刺さる	1	皮肉を込める	1
痛む	8	傷つく	1	やる	1
(痛みを)感じる	3	突つつく	1	取る	1
痛い	1	突き通す	1	一 φ (動詞)	6
刺す	4	一突き	1		
注射をする	2			合計	44

また、例(32)、例(33)に示すように、「チクリ」も「肉体的刺激」と「精神的刺激」を表す。ただし、「チクリとする」は「肉体的・能動」の場合において「チクッとする」以上に使いにくいと思われる。BCCWJから出現した5例の「チクリとする」(肉体的3例、精神的2例)も、「チクリとした痛み」、「肌がチクリとした」など全て受動的な例であった。

(32) a. 首筋を針でチクリと{*する/刺す}。(肉体的・能動)

b. 首筋に毛が刺さってチクリと{する/痛む}。(肉体的・受動)

(33) a. 相手の良心をチクリと{*する/責める}。(精神的・能動)

²² 「確認遅くなった事をわびながら、連絡くれなかったことをチクリ言って良いですか？」(Yahoo!知恵袋)

b. 彼のことが心配で胸がチクリと{する/痛む}(精神的・受動)

また、「チクチク」と違って「チクリ」には運針の様態を表す用法がない。これは「チクリ」も「チクッ」と同様に一回的な動作を表すため、運針のように連続的動作を表すことができないためであると考えられる。

6.2 「チクリ(と)」の主体・対象

次に「チクリ」の主体または対象について見る。BCCWJ の検索結果を表8に示す。「チクリ」は肉体的刺激が 21 例(47.7%)、精神的刺激が 23 例(52.3%)と、両者がほぼ半々になっている。この点で、肉体的刺激の割合が高い「チクチク」や「チクッ」とは異なる傾向を見せている。痛みの部位は「首」、「胸」などのほか「チクチク」が使える部位は「チクリ」も使えると思われる。

表8 「チクリ(と)」の主体・対象 (出現数)

肉体的刺激(21)				精神的刺激(23)			
首	2	指	1	胸	5	皮肉	2
胸	2	植物	1	心	2	連絡をくれないこと	1
神経	2	しゃくとり虫	1	良心	1	φ(精神)	9
肌	1	いも虫	1	自尊心	1		
目の横	1	時間	1	罪悪感	1		
うなじ	1	φ(痛み)	6	(野球の)巨人	1		
尻	1						
						合計	44

また、「チクリ」が肉体的な痛みを表す場合、例(34)、例(35)のように他動詞構文に使われることもあれば、例(36)、例(37)のように自動詞構文に使われることもある。

(34) 誰かが針で首筋をチクリと刺す。(人ガ 刺激物デ 身体部位ヲ 他動詞)

(35) セーターの毛が首筋をチクリと刺す。(刺激物ガ 身体部位ヲ 他動詞)

(36) 首筋がチクリとする。(身体部位ガ 自動詞)

(37) セーターの毛がチクリとする。(刺激物ガ 自動詞)

また、肉体的な痛みは共感的に精神的な胸の痛みにも使われるようになる。この場合も

「チクチク」が連続的な心の痛みを表すのに対し、「チクリ」は「チクッ」と同様に瞬間的な心の痛みを表すという違いがある。また、「チクチク」と「チクッ」は相対的に程度が弱いのにに対し、「チクリ」は相対的に程度が強いという違いがある。これを例(38)～例(41)に示す。

- (38) 相手の欠点をしきりに{チクチク/*チクッ/*チクリ}と責める。(連続的)
- (39) 相手の欠点を一言{*チクチク/チクッ/チクリ}と責める。(瞬間的)
- (40) 相手の欠点を{チクチク/チクッ/*チクリ}と撫でるように責める。(程度弱)
- (41) 相手の欠点を{*チクチク/*チクッ/チクリ}と突き刺すように責める。(程度強)

最後に「チクリ」の用例を例(42)～例(45)に示す。

- (42) (肉体的・能動的) そのとき はいしゃさんは しんけいに ちくりと ちゅうしゃをします。(小林清之介『幼年版・ファールコンちゅう記』)
- (43) (肉体的・受動的) 1回目、ちょっとだけチクリとしましたが2回目からは全然痛みは感じませんでした。(Yahoo!知恵袋)
- (44) (精神的・能動的) ちくりと皮肉を言うと、かりほはいっそう笑みを広げた。(逢坂剛『[ノスリ]の巣』)
- (45) (精神的・受動的) 香流は、そう言葉にして言うと胸がちくりと痛むのを感じた。(柴田よしき『宙都』)

7. 「チクリチクリ(と)」

7.1 「チクリチクリ(と)」の被修飾語

次に「チクリチクリ」の被修飾語について見る。BCCWJの検索結果を表9に示す。「チクリチクリ」は全9例のうち、「言う」の中の1例²³を除いた8例(88.9%)で「と」が付いている。表9を見ると、「チクリチクリ」は「チクリチクリとする」の形で使う場合が9例中1例(11.1%)しかなく、「チクチク(と)する」や「チクッとする」に比べて使用率が低いことが分かる。また、「チクリチクリ」の被修飾語には「痛み出す」のように痛みを表す語、「刺す」のように針状の物で何

²³ 「いまだに若い頃のダンナの車とかいろんな金銭面でのことをチクリチクリ言うんだもんな。」(Yahoo!ブログ)

かを刺すことを表す語、「言う」のように発言を表す語が来る点や、複数の動作を表す点で「チクチク」と似ている。しかし、「チクチク」が連続的で小刻みな様子を表すのに対し、「チクリチクリ」は細切れに断続する様子を表すという違いがある。これは「チクリチクリ」は「チクリ」と刺してから抜き、また刺すのに時間がかかるためであると考えられる²⁴。そのため、例(46)のように小刻み(連続的)な動きも細切れ(断続的)な動きも可能な場合は「チクチク」も「チクリチクリ」も使えるが、例(47)のように細切れ(断続的)な動きしかできない場合は「チクリチクリ」しか使えない。

- (46) セーターの毛が首筋に{チクチク/チクリチクリ}と何度も刺さる。(連続的・断続的)
 (47) 鍼を体に{*チクチク/チクリチクリ}と何度も刺し通す。(断続的)

表9 「チクリチクリ(と)」の被修飾語 (出現数)

一する	1	言う	2
痛み出す	1	指摘する	1
刺す	2	(急所を)突く	1
注射をする	1	合計	9

また、例(48)、例(49)に示すように、「チクリチクリ」も「肉体的刺激」と「精神的刺激」を表す。「チクリとする」と同様に、「チクリチクリとする」も「肉体的・能動」の場合において使いにくい。BCCWJから出現した1例の「チクリチクリとする」(肉体的)も受動的な例であった²⁵。

- (48) a. 首筋を針でチクリチクリと{*する/刺す}。(肉体的・能動)
 b. 首筋に毛が刺さってチクリチクリと{する/痛む}。(肉体的・受動)
 (49) a. 相手の良心をチクリチクリと{*する/責める}。(精神的・能動)
 b. 彼のことが心配で胸がチクリチクリと{する/痛む}(精神的・受動)

²⁴ 田守・スコウラップ(1999:27)は「日本語のオノマトペの語基に付加される「り」は、「ゆったりした感じ」ないしは「完了」という概念を表すと考えられる」と指摘している。また、吉永(2019:印刷中)も「瞬間的事態を主として表わす語末促音型の「ガタッ」「バタッ」に比べ、「ガタリ」「バタリ」では一連の動作や状況が一段落したことの意味合いが強いと思われる」(3.4節)と指摘している。

²⁵ 「なに、痛いたって針の先でちくりちくりとするだけだろう。そんなのどうってことはない」(中西輝政・渡部昇一『誇りなき国は滅ぶ』)

また、「チクリチクリ」は「チクリ」と同様に運針の様態を表す用法はない。「チクリチクリ」も「チクチク」と同様に反復的事態を表すが、「チクチク」が連続的で小刻みな様子を表すのに対し、「チクリチクリ」は細切れに断続する様子を表すため、運針のような連続的動作は表しにくいのである。

7.2 「チクリチクリ(と)」の主体・対象

次に「チクリチクリ」の主体または対象について見る。BCCWJの検索結果を表10に示す。「チクリチクリ」は肉体的刺激が5例(55.6%)、精神的刺激が4例(44.4%)と、両者がほぼ半々になっている。この点で、「チクリ」と同様に肉体的刺激の割合が高い「チクチク」や「チクツ」とは異なる特徴を見せている。痛みの部位は「胃」、「尻」などのほか「チクチク」が使える部位は「チクリ」も使えると思われる。

表10 「チクリチクリ(と)」の主体・対象 (出現数)

肉体的刺激(5)				精神的刺激(4)			
胃	1	いも虫	1	急所	1	手厳しい意見	1
傷口	1	φ(痛み)	1	金銭面でのこと	1	技量が甘いこと	1
尻	1					合計	9

また、「チクリチクリ」が肉体的な痛みを表す場合、例(50)、例(51)のように他動詞構文に使われることもあれば、例(52)、例(53)のように自動詞構文に使われることもある。

- (50) 誰かが針で首筋をチクリチクリと刺す。(人ガ 刺激物デ 身体部位ヲ 他動詞)
 (51) セーターの毛が首筋をチクリチクリと刺す。(刺激物ガ 身体部位ヲ 他動詞)
 (52) 首筋がチクリチクリとする。(身体部位ガ 自動詞)
 (53) セーターの毛がチクリチクリとする。(刺激物ガ 自動詞)

また、肉体的な痛みは共感的に精神的な胸の痛みにも使われるようになる。この場合、例(54)～例(57)に示すように、「チクリチクリ」は複数的で相対的に程度が強い様子を表す。さらに、同じ複数的様子でも「チクチク」が間を開けず連続的な様子を表すのに対し、「チクリチクリ」は2つの「チクリ」の間に間がある断続的な様子を表している。

- (54) 相手の欠点をしきりに{チクチク/*チクッ/*チクリ/チクリチクリ}と責める。(複数的)
- (55) 相手の欠点を一言{*チクチク/チクッ/チクリ/*チクリチクリ}と責める。(一回的)
- (56) 相手の欠点を{チクチク/チクッ/*チクリ/*チクリチクリ}と撫でるように責める。(程度弱)
- (57) 相手の欠点を{*チクチク/*チクッ/チクリ/チクリチクリ}と突き刺すように責める。(程度強)

最後に「チクリチクリ」の用例を例(58)～例(61)に示す。「精神的・受動」の用例は BCCWJ からは出現しなかったため作例を示しておく。

- (58) (肉体的・能動) じがばちは おしりから すばやく はりを出して ちくりちくりともむしに ちゅうしゃをしたのです。(小林清之介『幼年版・ファールコンちゃん記』)
- (59) (肉体的・受動) しかしそのうち、胃がちくりちくりと痛み出してヘロインを打ち、(嵐山光三郎『美妙、消えた。』)
- (60) (精神的・能動) いまだに若い頃のダンナの車とかいろんな金銭面でのことをチクリチクリ言うんだもんな。(Yahoo!ブログ)
- (61) (精神的・受動) 彼のことを思って、彼女は胸がチクリチクリと痛んだ。(作例)

8. まとめ

最後に、本稿で論じた「チクチク」、「チクッ」、「チクリ」、「チクリチクリ」の特徴を表 11 に整理しておく。これらの語はいずれも「針状の物で何かを刺す時の様態を表す」という基本義を持ちながら、動作の回数や程度、「一と」の付加の有無、「一する」の形の場合の意味の違い、用法の違いなどに違いがある。

これらの違いについては、これまであまり詳しく論じられることはなかったが、日本語教育の立場からは詳細に違いを記述しておく必要がある。今後はさらにこれらの語の意味関係を分析するとともに、他のオノマトペとの関係も明らかにしていきたい。

表 11 「チクチク」、「チクッ」、「チクリ」、「チクリチクリ」の特徴

	タイプ	動作の回数	程度	「-と」	「-する」の可否				用法の有無			
					肉体		精神		肉体	精神	運針	「少し」
					能動	受動	能動	受動				
チクチク	A	複数的・連続的 (小刻み)	浅い	任意	○	○	*	○	○	○	○	○
チクッ	A	一回的・瞬間的	浅い	必須	?	○	*	○	○	○	×	×
チクリ	A	一回的・非瞬間	深い	必須	*	○	*	○	○	○	×	×
チクリチクリ	A	複数的・断続的 (細切れ)	深い	必須	*	○	*	○	○	○	×	×

(注) ○は可または有、*は否、?は不自然、×は無を表す。

付記: 本稿は平成 27-29 年度科学研究費基金(基盤研究(C))「心身の状態を表すオノマトペの習得研究—医療福祉分野への貢献を視野に入れて—」(研究代表者:吉永尚、課題番号 15K02670)による研究成果の一部である。

[参考文献]

- 秋田喜美(2013)「共起特性から見るオノマトペのフレーム意味論」『オノマトペ研究の射程—近づく音と意味—』, 101-115
- 秋田喜美(2016)「言語体系の中のオノマトペ」『レキシコンフォーラム』No.7, 19-39
- 小野正弘(編)(2007)『擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典』小学館
- 杉村泰(2017)「日本語のオノマトペ「ヒリヒリ、ヒリッ、ヒリリ」、「ビリビリ、ビリッ、ビリリ」、「ピリピリ、ピリッ、ピリリ」の記述的研究」『ことばの科学』第 31 号, 名古屋大学言語文化研究会, 111-130
- 杉村泰(2018)「日本語のオノマトペ「キュン」、「キュンキュン」、「キューン」、「キュッ」、「キュッキュッ」の記述的研究」『ことばの科学』第 32 号, 名古屋大学言語文化研究会, 25-44
- 田守育啓・ローレンス・スコウラップ(1999)『オノマトペ—形態と意味—』くろしお出版
- 吉永尚・宮田久枝・鈴木庸子(2012)「心身の状態表現に関する日本語教育の諸問題—医

療従事者のグローバル化に向けて—』『園田学園女子大学論文集』46, 125-132

吉永尚(2016)「心身の状況を表す擬態語動詞についての素性分析」『園田学園女子大学論文集』50, 21-28

吉永尚(2019)「オノマトペの語形パターンに関する一考察」『園田学園女子大学論文集』53, (印刷中)

